



第60回奄美群島市町村議会議員大会



第60回 奄美群島市町村議会議員大会



主
な
内
容

常任委員会報告	2
一般質問に6名が登壇	4
人事・議会のうごき	10
諸般の報告	11
読者の声・編集後記	12



常任委員会報告

総務文教委員会



総務文教常任委員長
榮 哲治

一般会計

総務費

※奄美群島成長戦略推進交付金事業
四億六千五百万

自然休養村・坂嶺生活館・島中公民館をバリアフリー化し改修する事業

質疑

その他の公民館の整備について

平成二十九年第二回定例会は、六月五日から十二日までの八日間開催されました。

初日は、一般質問（議員六名登壇）、平成二十八年度喜界町一般会計補正予算外十四件を（専決処分）承認し、繰越明許費繰越計算書（一般会計、簡易水道事業特別会計）、外一件の報告がありました。平成二十九年第一一般会計補正

予算外九件については、各常任委員会に付託しました。農業委員会委員の任命については、全会一致で同意しました。最終本会議には、平成二十九年喜界町一般会計補正予算外九件を原案どおり可決しました。

答弁

順次行う

質疑

休養村の改修はどのようなものか

答弁

主に耐震化です

企画費

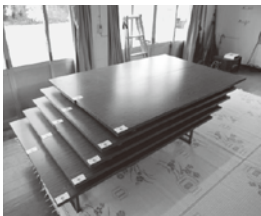
※ホームページ委託料
二千六百十万

※一般コミュニティ助成事業
四百四十万

コミュニティ活動に必要な備品や集会施設の整備等を行うことで、地域のコミュニティ活動の充実・強化を図ることにより、地域社会の健全な発展と住民福祉の向上に寄与すること。



コミュニティ助成事業
(グランドゴルフセット・長机・クーラー)



その他に審査した条例

※報酬及び費用弁償条例の一部を改正する条例

※辺地に係る公共施設の総合整備のための財政上の特別措置等に関する法

律に基づく総合計画

※町道に設ける道路標識の寸法を定める条例の一部を改正する条例



審査する総務文教常任委員会

産業福祉委員会



産業福祉常任委員長
安田 英次郎

一般会計

民生費

※保健福祉総務費
四百万

これまでは産婦人科のみの旅費助成であったが、その他の診療科目についても医師旅費助成を行うため

質疑

医師旅費助成金の産婦人科以外の診療科目は

答弁

小児科・眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科・腎臓内科・循環器科・整形外科

衛生費

※二酸化炭素排出抑制対策事業
千五百万

再生可能エネルギーとして利活用するための可能性を調査するもの

質疑

二酸化炭素排出抑制対策事業を実地している自治体はあるか

答弁

兵庫県の丹波市

※廃棄物処理施設整備費
三億四百万

クリーンセンター本体の整備費と基本計画から設計までの委託料



クリーンセンター

質疑

一般廃棄物焼却施設整備費ほどの程度か

答弁

二十九年度から三十一年度までの継続整備費で十八億円

農林水産業費

※農業基盤整備促進事業費
三百十万

地下ダムの仕切弁工事で川嶺・滝川地区を行う

※林業振興費
百万

空港高倉工事の監理委託料

特別会計

※平成二十九年度喜界町老人福祉施設事業特別会計補正予算

歳入歳出予算の総額にそれぞれ三十万を追加するもの

※一般管理費
三十万

※審議会委員十名の報酬費

質疑

委員の構成はどのように考えているか

答弁

入所者家族・福祉事業所・議員・民生委員・集落、それぞれ二名ずつの代表

質疑

審議会の開催日程、回数について

答弁

なるべく早い時期に開催し、年六回を予定

◇委員会からの意見として

審議会について、ひらかれた場所での公に行うよう強く要望した。



審査する産業福祉常任委員会

町政のここが聞きたい

いっぱん質問

第2回定例会で6名の議員が町政全般にわたり一般質問を行いました。質問と答弁を要約して紹介いたします。



質問する
生駒 弘 議員

質問 就学援助について

質問 準要保護児童生徒を対象に新入学児童生徒学用品費の入学前の支給について就学援助における、準要保護児童生徒を対象とする新入学児童生徒学用品費の入学前からの支給に対応するための予算措置、システムの変更、要綱等の改正について、いまから確実に準備を進めていくことが必要ではないか。

答弁 教育長

現在、喜界町では、新入学児童生徒の準要保護の認定は教育委員会内規に従って、保護者の税が確定する六月上旬に学校を通して、六月下旬から七月上旬に認定を行っています。入学前に支給した場合は、児童生徒が転出した時、

あるいは当年度の税の確定（六月）で認定できなかった場合は返納してもらうこととなります。また、入学前に支給すると認定を二回行う必要があります。参考までに、大島地区の市町村で入学前に支給しているところはないが、今後、関連情報等を収集して、その可能性について検討する。

質問 農業振興について

質問 今期製糖は久々の豊作で農家もさぞかし潤っているかと思いますが残念なことに刈残しがありました。農協の調べによると面積が二町六反余り、予約トン数で百三十トン余りのキビが刈残されています。最終搬入をあと一日伸ばしてくれたら全部刈り取り出来たと思うと非常に残念でなりません。このことについて町長はどう考えるか。

答弁 町長

九万五千八百三十三トンと

平成二十年以来の九万トン台という大豊作の年に刈残しがあったことは、誠に残念なことです。

質問

行政の立場から会社や農協と話し合い指導すべきではないか

答弁 町長

現在、JAの一元集荷の基に、割当や残量調査などの取りまとめを行っており、会社への指導というより、JA・



刈り残しのサトウキビ

質問 受動喫煙について

生和糖業を中心に生産者、ハーベスタ受託者も含め、関係機関で調整を図っていただくことが、重要であると考えています。町としましても、今後は刈残しがないよう、事前に関係機関に調整を図るよう働きかけます。

質問

東京オリンピックを控え受動喫煙が国会でも問題になっていますが、新聞報道によると、厚生労働省研究班がまとめた受動喫煙による医療費推計が年間三千二百億円に上るそうです。できるだけ人に迷惑を掛けないように、きちっとした喫煙所を設置すべきではないか

答弁 町長

現在、国において、受動喫煙防止対策の推進に関する法律案が検討されており、官公庁や福祉施設などは、「建物内禁煙」。学校や医療機関な

どは「敷地内禁煙」。利用者
が選ぶ機会のある飲食店など
サービス施設や、職場オフ
イスなどは「原則建物内禁
煙」とし、煙が外に流出する
のを防ぐ、喫煙室の設置を認
める方向と、受け取っていま
す。今回の法律が制定され次
第、制度にあった喫煙所を設
置したいと考えている。



質問する
良岡 理一郎 議員

質問 フェリーの運航について

奄美の島々で日曜日、月曜
日にフェリーが運航してない
のは喜界町のみ。農業、教育、
医療、観光など住民生活の向
上に週七便体制は不可欠であ
る。しかし、喜界航路が赤字
航路であるため、これ以上の
拡充は無理とのことである。
国会では全国二百六ある離
島航路というのはその住民の

皆さんにとつてまさに「海の
国道」であり、陸の国道であ
れば税金で道路を整備し利用
者は無料で利用できる。海の
国道の離島航路も、本来、無
料で出来るような取り組みこ
そ大切であるとの議論もなさ
れている。加えて喜界航路の
約九十九・五％は補助金で賄
われている。それらを踏まえ
て三点伺う。

質問

週七便体制（一日一便）に
した時に予測される年間の概
算の欠損額、補助対象額、国、
県の負担額、そして十二市町
村の協議会の負担額、とりわ
け喜界町の負担額はいくらに
なるか。

答弁 町長

週七便体制は、島民誰もが
望むところではある。現状で
も国・県、関係市町村の多額
の赤字補填と運航会社の厳し
い努力があつて初めて、週五
便・二隻体制が維持されてい
る。これ以上赤字は増やせな
い。現状でも島出荷の積み荷

は十分ではないと関係機関、
船会社等から地元の努力を求
められている。

答弁 企画観光課長

仮に週七便体制になると百
四日運行が増え約二億三千九
百二十万円の赤字と試算され
人的増員も含めるとさらに赤
字が膨らむと予想される。
現状以上の補助は難しいと
考えている。

質問

現在、鹿児島↓奄美↓沖縄
航路にはフェリーが毎日運航
している。日曜日・月曜日
について喜界へ寄港できないか。

答弁 企画観光課長

提案については鹿児島・喜
界・知名航路の縮小にも繋が
る恐れがあり、現状では考え
ていない。

質問

いずれにせよ、関係者との
調整を進め旅客や貨物等の需
要やコスト確認のため一刻も
早く実証航路（実証実験）す

べきだと思つて見解を伺う。

答弁 企画観光課長

実証航路案については貨物、
乗客の大幅な増、収益増が見
込まれることが前提であり、
現状では難しい。

質問

早町港の待合室について

質問

昨年度の湾・早町港への定
期船総接岸回数は四百八十八
回である。その内六十五回が

早町港が利用されている。国
立公園指定など今後の交流人
口も増えることが予測される。
早町港の待合室を改装、テ
レビ設置、トイレ改修など快
適な環境に改善すべきではな
いか。

答弁 建設課長

今年の二月に浄化槽が壊れ、
整備を検討したが築三十年を
超えて老朽化しているので建
て替えを含め検討中である。
今年度中に結論を出したいと
考えている。

質問

介護用品購入助成券 (六千三百円)使い勝手の 改善について

購入助成券は町民に喜ばれ
ている事業である。しかし、
例えば、要介護四の在宅介護
を受けている方が全て紙おむ
つを使っているわけではない。
ポータブルトイレを使いな
が自立を目指している方もい
る。そこでいくつかの改善が
求められる（二点について）



老朽化した早町漁港待合所

質問

対象品目にポータブルトイレの洗浄に必要な手袋や洗浄液、濡れティッシュ、口腔用のマウスウォッシュなど追加したらどうか。

答弁 保健福祉課長

以前は防水シートや手袋などの衛生用品も対象にしていましたが、介護用品と生活用品の区別が難しく、目的外利用も見られたので平成二十五年度より紙おむつ用品に限定している。対象品目の追加は現在のところ考えていない。

質問

購入助成券（六千三百円）を千円券綴りにして、取り扱った四店舗内いつでも使える様にしたら助成効果も大きいのではないか。

答弁 保健福祉課長

対象品目の単価や日々の必要枚数から助成額の六千三百円を超えて介護用品を購入しているため、助成券の分割は必要ないと考えている。

質問

共同納骨堂について

質問

本町でも過疎化、少子高齢化に伴い墓参や墓掃除など、先祖のお墓の維持が大変になってきている。これまで長らく墓の問題は個々の家庭の問題とされてきていた。

同じ問題を抱えていた奄美大島の宇検村では、集落ごとに「精霊殿」と呼ばれる共同納骨堂を建設している。行政は墓地周辺を公園として整備することで支援しているようである。

本町においても、多くの町民の関心が高い今、町のインシアティブで無縁墓を一掃し、先祖供養をどのような形で進めるのが良いのか調査、研究すべき時期に来ていると考える。検討する場の設置が求められていると思うが如何か。

答弁 町長

本町の墓地の多くは、古くから共同墓地の形態で、地域の方々が主体となって管理運

営している状況。共同納骨堂

については、政教分離の観点からも町が主導権を持つのではなく地域で対応していただきたい。



質問する 幸一美 議員

質問

公共下水道事業について

喜界町では、都市計画法に基づき「公共下水道事業」、農業振興地域の整備に関する法律に基づく「農業集落排水事業」は、美しい環境の保全ということからも重点施策として事業が推進してきました。しかしながら、着工以来十八年経過しているが現時点での接続率は

公共下水道	
湾	53.8%
赤連	56.5%
中里	44.9%
池治	58.1%

答弁 町長

平成二十八年度に策定した中長期的な経営の基本計画である、下水道事業経営戦略をもとに事業運営を行います。特に収支計画の料金収入については、着実に遂行するため接続率の向上に努め広報紙でのPR、個別訪問等を行いより一層推進します。

集落排水	
荒木	53.1%
城久	48.9%
志東	44.4%
志南	32.5%
佐手久	30.9%

質問

交付金を活用した工事推進は考えられないか。

答弁 町長

下水道の宅内配管については、原則個人設置ですが、活用できる交付金等があれば今後検討します。

質問

町民の安心・安全について

質問

独立採算性の事業運営を目指す上で、今後どのような取り組みを考えているか。

南海トラフ地震は、三十年以内に七十%、五十年以内に九十%と、高い確率で発生が予想されている。本町での津波の規模は、六メートルと予

想され、沿岸部に集落が集中しているので、迅速な津波発生のアナウンスと避難誘導が重要である。近くに高台がない集落住民の非難移動手段は車に限られる。スムーズな移動を可能とする不断の取組として、非常時における非難誘導の指定と一方通行規制などの諸規制や誘導路の拡幅を含めた防災整備が必要ではないか。

【答弁】 町長

喜界町では、災害指定避難所を三十二箇所、災害時の福祉避難所は四箇所指定していますが、これら避難所へ接続する避難道路は指定していません。

しかし、喜界町においては、避難所へ接続する道路は数多くあり、一部の道路が途絶えても孤立する集落や物流に支障をきたすといった機能不全状態に陥る可能性は低いと想定されます。避難道路の指定・整備は重要ですが、各集落の自主防災組織と避難経路の確認や避難・図上訓練等を

実施するほうが喜界町の現状に即していると思われれます。今後も自主防災組織と協力しながらこれらの訓練等を継続して行っていきたいと考えています。又、整備については、今後の事業等も視野に入れながら検討します。



質問する
榮 優太 議員

【質問】 奄美世界自然遺産登録に なった時の本町の受入体制について

奄美群島国立公園が三月七日に指定され国内三十四番目の国立公園が誕生しました。国立公園のエリアは奄美市など十二市町村の陸域と海域の約七万五千ヘクタールです。本町の陸域エリアでは百之台や阿伝などが普通地域、佐手久から志戸桶海水浴場までが第三種特別地域、荒木遊歩道周辺から荒木漁港まで第一種

特別地域など、他にも指定されている地域が沢山あります。

【質問】

現在、喜界島と奄美を結ぶ航空路線は往復三便、船便が往復一便となっているが、奄美世界自然遺産登録になれば、本町への観光客増加も見込まれると予想される中、空港、港湾の整備や受入れはどのような考えか。

また、便数の増加や視界不良での欠航の対策、空港や湾港施設の強化などが必要ではないか。

【答弁】 企画観光課長

増便については、平成二十七年年度の鹿児島県喜界間の搭乗率は六十七・八%、平成二十八年年度上半期は七十二・二%となつていますので、現状では増加を要望する状況にはないと考えています。視界不良での欠航の対策については例年、梅雨に入ったこの時期、度々欠航があり、住民生活や経済活動に支障を来しており、

日本エアコミューター株式会社、本町、共に就航率の向上が課題であると認識しています。そのため、日本エアコミューター株式会社では昨年七月、就航率向上を念頭に、GPSを利用した空港施設の整備・改善の要望書を国土交通省に提出しており、国も順次、空港施設の強化、整備をすると伺っています。空港施設については、搭乗時の混雑防止の為、施設改善を念頭に、日本エアコミューター株式会社、株式会社奄美航空、町、県と協議をしていますが、現状では大きな進展はありません。今後、解決しないといけない課題だと思っており、引き続き四者で協議をします。

【質問】

本町は目視確認での飛行機着陸である為、視界不良での欠航が多い事から多くの来島者が島に入れないために商業施設等の経済に多くの不利益になっていきます。奄美、喜界を結ぶ高速船の就航があれば飛行機欠航であっても多くの

方が高速船で島に入る事ができる。また、フェリーの定期便にない日曜日、月曜日の運行によりスポーツ振興強化も考えられる事から、高速船での新たな就航はできないか。

【答弁】 町長

高速船での新たな就航については、以前、不定期船が就航していた時期もあったが、採算性や外洋故の波の荒さなど、様々な理由で撤退しており、環境的には厳しいと認識しています。

【質問】

本町の一日の宿泊最大人数は、シングル換算で約百五十人と聞いています。四月に喜界島マラソンがあったが、宿泊の受け入れが足りないのが、島外からの参加受入れが八十名程度しかとれなかった。事前に予約している方や宿泊している方がいるので島外からの参加受入れもそのくらいしかできないのが現状です。今後、奄美世界自然遺産になれば、宿泊施設が足りなく

なると予想されるがどのようなか。考えているか。

【答弁】 町長

公的施設整備は民業圧迫の恐れもあり、難しいと考えています。現在、民間でビジネスホテル建設の動きもあるようですので、推移を見守りたいと考えます。

質問 通学路の外灯や安全対策について

【質問】

喜界高校に入学して一年間は旧早町中校区、二中校区、荒木の生徒は原付免許を取るまでは、自転車通学となっています。スポーツが盛んな本町では時間が遅くなるまで部活の練習をしているので真っ暗な道を下校しないといけません。道が暗いと転倒の恐れや、交通事故もおきる可能性が高いことから通学路における外灯設置が必要だと思います。外灯が設置してない場所の安全対策や外灯設置の検討は

きないか。

【答弁】 町長

平成二十八年九月議会において、生駒議員より中里から荒木集落までの外灯設置について、質問がありました。質問の道路については、県道、町道、農道でもあり県との協議が必要です。また、伊砂く伊実久間に外灯を設置した経緯もありますが、設置するためには、町全体を対象とする



指宿～根占間就航 高速船

必要があります。調査しながら安全面・防犯面等を確認して、設置については検討をします。



質問する
河上 弘仁 議員

質問 メイチュウ、ワタアブラ虫防除対策について

【質問】

どのような対策がなされているか

【答弁】 町長

メイチュウについては、八地区に十七個のトラップを設置し、毎月十日おきに捕獲調査を行い、捕獲が多い時期には情報無線で防除を呼びかけています。ワタアブラ虫についても圃場での発生が確認された場合には、随時情報無線で防除の呼びかけを行います。

【質問】

今後、ドローンや防除機の導入を考えているか

【答弁】 町長

ドローンでの散布については資格が必要であり、また使用農薬も限られているが、他自治体での導入事例もあるので、国のリース事業を活用した乗用型防除機の導入事業も進めながら、検討します。



ドローンでの農薬散布

【質問】

質問 やういねむしん

【質問】

本年度の状況全般について刈取り残があったが、どの程度残ったか。

【答弁】 町長

平成二十年以来の九万トン台と大豊作となり、大変喜ばしいことだと思っています。一方で刈取り残しがあったというのは非常に残念です。

【答弁】 農業振興課長

刈り取り残は全体で約八十五トンです。

【質問】

トラッシュユ率がどの程度であったか。また適正に対応されているのか

【答弁】 町長

平成二十八・二十九年産では、全体で九・九八%、立会人からの報告書類の中では問題なく、適正に対応されていると考えている。



質問する
峰山 恵喜光 議員

質問 空港整備について

質問 日本エアコミューターの新しい翼、ATR42-600型機が喜界島にも就航予定です。現在のサーブ340B型機と比較しますと、座席数が三十六席から四十八席へ。十二席多い一回り大きい機体のようにです。また、ATR機は座席を倒すことができ、患者を搬送することができます。離島の医療を支える路線としても期待されています。先月の新聞でも載っていますが、二十八日に鹿児島―奄美線にATR機が就航しています。奄美群島への新型機就航は沖永良部島について二番目となりました。

ATR機の喜界島就航予定はいつか。

回答 町長

ATR機の就航予定については、今年の十二月頃の予定です。

質問

340B型機より一回り大きい機体であるATR機は現在より欠航のリスクが増える可能性があるのではないかと懸念していますが、欠航のリスクは増えないか。

回答 企画観光課長

ATR機はサーブ機に比べ、短距離での離着陸や低空飛行が可能のため、欠航率は現在よりも低くなるのではないかと予想しています。

質問

喜界島の過去十年間の平均就航率は九十六、八%。奄美群島で誘導システムがないのも喜界空港だけです。就航率の向上や、増えてくる観光客の方の不安を緩和するためにも、滑走路延長や誘導灯の設置、整備が必要ではないか。

回答 企画観光課長

滑走路延長については、ATR機の特長として、サーブ機よりも楽に離着陸できることですので、今のところ考えていません。誘導灯については、国土交通省でGPSを利用した空港施設の整備・改善を順次進めていくと伺っており、早急な整備を後押しします。

質問

今後、観光客増が見込まれる。また、新機種に変わると現在より乗客数が増えることにより発着の混雑が想定される。スムーズにするためにも待合所や保安検査場の建物は今のままで良いのか今後の計画を尋ねる。

回答 企画観光課長

ターミナルビルについても課題を認識しており、早急に解決したい問題であります。今年二月には、ターミナルビルの改善について、日本エアコミューター株式会社、株式会社奄美航空、県、町と協



ATR機

議を致しましたが、残念ながら合意にはいたらず、引き続き協議をしているところです。

次回
定例会

次の議会は、9月上旬を予定しています。

午前 9:30 皆様の傍聴をお待ちしています。

●お問い合わせ先 65-1115

人事

○ 農業委員会委員の任命に同意

- 麓 義信 (湾)
- 久永 照光 (伊実久)
- 禎 正利 (島中)
- 益田 豊一 (荒木)
- 澄岡 美和子 (上嘉鉄)
- 晴峯 武洋 (西目)
- 楨 清志 (中里)
- 弘岡 稲子 (佐手久)
- 永野 保 (蒲生)
- 竹本 欣弥 (小野津)
- 吉岡 強 (池治)

議会のうごき(6月～8月)

- 6月5日 第二回喜界町議会定例会 (一般質問等)
- 6月7日 各常任委員会 (補正予算等審査)
- 6月12日 第二回喜界町議会定例会 (閉会)
- 6月13日 喜界島漁協組合総会 (議長)
- 6月15日 喜界町長寿会総会 (議長)
- 7月4日 正副議長研修会 (鹿兒島) 議長・副議長
- 7月12日 平成三十年度公立高等学校生徒募集定員策定等に係る地区説明会 (奄美市) 議長
- 7月19日 平成二十九年国防衛省全国情報施設協議会総会 (東京) 議長
- 7月25日 鹿兒島県監査協議会研修会 (鹿兒島市) 峰山議員
- 8月3日 市町村政研修会 (鹿兒島市) 全議員
- 8月23日 議会広報研修会 (鹿兒島市) 広報委員

諸般の報告

議長 外内 千里

(一) 三月二十六日、奄美空港においてパニアエアの関西空港、奄美空港間の新規就航の出迎え、就航祝賀会に出席いたしました。空港では機体を消防の放水で出迎え、空港前広場で記念行事を行いました。関西空港から金子、保岡衆議院議員、三反園知事、大島郡の市町村長等が搭乗されており、パニアエアの五島社長他二名の役員、本町出身の関西奄美会の会長も同行しており、花束贈呈、鳥唄、佐仁の八月踊りによる歓迎のセレモニーが行なわれました。

その後、山羊島ホテルで祝賀会が行なわれ、出身者の多い関西からの就航に皆さん熱い期待を寄せておりました。

(二) 四月十六日、尼崎アルカイックホールにおいて、関西奄美会の結成百周年記念式典および、各市町村の伝統芸能、出身者で芸能活動されている方々、関西奄美会会員による芸能発表がありました。式典では、関西奄美会の役員、

奄美に関係のある国会議員、各市町村長、議長、また関西地元元の市長、国会議員の皆さんを壇上に席を設け、会場は出身者や観客で埋め尽くされました。主催者から結成当時の目的である出身者同士の助け合い活動等が会結成の元となったことなどの紹介がなされ、奄美から職、生活の場を求めて行かれた方々にとっていかに会員同士の心の拠り所であり、奄美会の存在意義を再認識いたしました。

芸能大会では、喜界町からは「川畑さおりさん」と、「赤連のなぎなた踊り」が舞台を務め、なぎなた踊りは、初めて見たと大変好評でした。また前日は、関西喜界会の新田会長より歓迎会の案内を受け、楽しいひと時を過ごさせていただきました。

(三) 四月二十五日、県庁にて町長、総務課長共々県政説明会に出席いたしました。三反園知事より本年度のおおまかな方針を伺い、各部長よりそれぞれの部の事業計画の説明がなされました。その晩は県庁奄美会会員の皆さんとの合同懇

親会に出席いたし、交流を深めております。翌日は奄美市、郡区選出の県会議員との市町村長、議長との意見交換会を開催しております。

(四) 五月二日、三日と鹿児島県離島議長会の研修会を徳之島で開催致しました。闘牛サミットの開催に合わせて是非議長会を徳之島で開催してほしいとの、徳之島三町の議長の要請で実現しております。初日は天城町で、つい先日落成した防災センターを主に視察し、災害時妊産婦、乳幼児を受け入れる部屋、稼働式椅子を整備した多目的室等、色々と工夫を凝らしております。是非可動式椅子の収納状況を見たいとの要望があり、収納状況を見せていただきました。三百六十席のホールが見事に多目的室に変わっていく状況はさすがに圧巻でした。翌日は午前中に徳之島町が開催する闘牛サミットの視察、地元関係の国会議員、県会議員の皆さん、サミット関係地域の国会議員、市町村長、議長が出席し、鳥唄、くすだままでのオーブ

ニングの後、闘牛大会が開催されました。議長会のメンバーは、はじめて観戦する方も多く、改めて徳之島にとって闘牛は文化であるとの認識をされておりました。

午後は伊仙町の長寿の島の象徴である泉重千代宅を拝見、健康施設、農産物直売所を備えた「ほうらい館」を視察致しました。二百余席の可動式多目的ホール、温水プール、水中歩行用の温水施設、トレーナーが常駐するトレーニング室、サウナを備えた風呂等を視察し、長寿と子宝の島の伊仙町の取り組みに関心しております。

(五) 五月十四日、奄美市において国立公園指定記念式典、祝賀会が開催されております。

環境大臣、奄美関係国会議員、三反園知事、県会議員、郡市町村長、議長ほか関係者が出席し、祝辞、各島々の取り組みの紹介が成された後、祝賀会が開催されました。

『議会だより』に寄せて

乾 生一(湾)

苦楽を共にした友からの電話があり、今回筆を執らせていただくことになりました。

二年前、大学・社会人と合わせて十四年間過ごした大分県を離れ、島に戻ってきました。せっかく帰ってきたからには、島のため、集落のため、家族のために、自らの経験を生かして何が出来るかを考えていたら、何かと声を掛けて頂き、充実した日々を過ごす幸運にも恵まれています。ただ、遺伝の成せる業か、島を離れる前から比べると三十キロ増えた身体は思うように動かず、苦勞も多い今日の頃です。

前回の編集後記を読んだ事がきっかけで、六月定例会のインターネット中継を拝見しました。普段は『議会だより』を通じて文字で読んでいる答弁ですが、それぞれの個性や熱量、受け答え時の真摯な姿がパソコン越しに伝わってきて、非常に良い試みだと実感しました。願わくは、集音機能の向上が図れば、視聴者としてはより聴き取りやすくなるのでは、

と感じています。

個人的には、同世代の三名の議員に期待しています。夢と希望とやる気を持って立った喜界町議会というフィールドで、若い勢いのままに何事にも取り組んでくれる事を願うばかりです。彼らは時に「出る杭」になる時もあるかもしれませんが、その時は百戦錬磨のベテラン議員の方々が、杭を打つだけでなく、下から押し上げて引き出してくれるような関係であれば、議会もより良いものになるのでは、と想像します。遙か昔より先輩方が積み上げてきた伝統と文化を継承しつつ、これからを見据えた変化にも柔軟に、島の若者が「夢」を、お年寄りが「安心」を持てる島づくりを目指して下さい。

最後に、「何も知らない若造が偉そうに」と思われた読者の方へ、敬愛する太宰の一節を添えて結びにしたいと思います。

「私はなんにも知りません。しかし、伸びて行く方向に陽が当たるようです。」

(『パンドラの匣』はこ)

編集後記

先人たちが築いてきた、愛する喜界島の将来をどのように築いていかなければならないか。三十歳を過ぎて、本気で考えそして行動しなければならぬと思ひ立候補しました。多くの力を頂き、仕事を勤めさせて頂いております。一期目ながら幸運にも広報委員会に入ることができ、三冊目の議会だよりになります。

町民の皆様、「議会だより」はいかかでしょうか。広報委員会では、議会の動きが広く伝わり、読み手にわかりやすく、手にとってもらえる、そして議会に興味をもって頂ける「議会だより」を目指し議論しながら作成しています。感想や要望などお寄せいただけたら有り難く思います。意見や情報を参考にによりよい広報活動を行っていきます。

ライバル紙に、喜界町発行の「広報きかい」があります。担当者は苦楽を共にした同級生のN君。どのように作り上げてくるのか期待しつつ、ライバル視しながら毎月の発行を楽しみにしています。彼のモチベーションの高さと、島の話題を島内、島外へどのように届けるかを日々考え、努力し作り上げる「広報きかい」は、発行するたび読みやすさと、新たな変化を加え楽しませてくれる。そして次回を期待させる。そのような「広報きかい」に近づけるよう、共に切磋琢磨しながら高みを目指し、愛する喜界町発展のため一歩ずつ頑張ります。

文責 野間 弘也

- 議会広報委員会
- 委員長 生駒 弘
 - 副委員長 河上 弘仁
 - 委員 良岡 理一郎
 - 委員 野間 弘也
 - 委員 峰山 恵喜光
 - 委員 榮 優太

一、交流人口拡大に向けた施策の推進と
更なる支援策の拡充

